

令和4年度 授業計画書(シラバス)

授業科目名							
運動器の診断2							
学科・昼夜	学年	学期	担当教員名			実務経験	
柔道整復学科・昼間部	3年	2期	柳澤 雅弘				
分野区分	教育課程			講義形式	単位	コマ数	
専門分野	柔道整復術の適応			座学	1	10	
科目概要							
骨、関節の疾患と傷害について、その病態と治療について学びます。また骨折や脱臼に伴う神経や血管の損傷についても学びます。さらに内臓の損傷の合併についても学びます。							
目標							
<b>一般目標(GIO)</b> <small>本講義を学習することで達成されるべき目標</small>	臨床において外傷の対応を正しく行えるようになるために、上肢部・下肢部を中心に適正な病態を把握し、柔道整復術の適否を考える。						
	<b>到達目標(SBO)</b> <small>一般目標を達成するために必要な具体的な内容、客観的な指標(合格基準)</small>	1. 診断を把握するため、その運動器の説明ができる。 2. 症状をとらえ、鑑別ができる。 3. 診断に伴い、柔道整復術の適応であるか考えることができる。					
履修に必要な予備知識や技能							
解剖学、組織学							
教科書・参考書							
医療の中の柔道整復 南江堂 整形外科学 南江堂							
受講上の注意							
授業中分からないことはすぐに質問してください。							
成績評価方法							
評価方法	定期試験	小テスト (チェックテスト)	レポート	実技試験	プレゼンテーション	その他	(合計)
評価割合 (%)	90					10	100
回数	授業内容				教科書	教材・持ち物	
第1回	損傷に類似した症状を示す疾患(医療の中の柔道整復)				P 3~17	筆記用具	
第2回	血流障害を伴う損傷(医療の中の柔道整復)				P 19~21	筆記用具	
第3回	末梢神経損傷を伴う損傷(医療の中の柔道整復)				P 23~29	筆記用具	
第4回	脱臼骨折(医療の中の柔道整復)				P 31~33	筆記用具	
第5回	肩、肩甲帯、上腕、肘関節(整形外科学)				P 170~202	筆記用具	
第6回	前腕、手関節、手、手指(整形外科学)				P 202~215	筆記用具	
第7回	骨盤、股関節(整形外科学)				P 216~230	筆記用具	
第8回	大腿、膝関節(整形外科学)				P 230~246	筆記用具	
第9回	下腿、足関節、足、足趾(整形外科学)				P 246~264	筆記用具	
第10回	定期試験					筆記用具	
実務経験と本講義との関連について							
メールアドレス							
yanagisawa-t@nihonisen.ac.jp							